

れば、額より流る、血は、椽の水をこぼすが如し、

〔今昔物語二十八〕中納言紀長谷雄家顯狗語第廿九

今昔中納言紀ノ長谷雄ト云フ博士有ケリ、才賢ク悟廣クシテ、世ニ並ビ無ク、止事无キ者ニテハ有ケレドモ、陰陽ノ方ヲナム何ニモ不知ザリケル、而ル間、狗ノ常ニ出來テ、築垣ヲ越ツ、屎ヲシケレバ、此レヲ怪ト思テ、□□ノ□□ト云フ陰陽師ニ、此ノ事ノ吉凶ヲ問タリケレバ、其ノ月ノ某ノ日、家ノ内ニ鬼現ズル事有ラムトス、但シ人ヲ犯シ崇ヲ可成キ者ニハ非ズト占タリケレバ、其ノ日、物忌ヲ可爲キナ、リト云テ止ヌ、而ル間、其ノ物忌ノ日ニ成テ、其ノ事忘レテ物忌ヲモ不爲ザリケリ、然テ學生共ヲ集メテ作文シテ居タリケルニ、文頌スル盛ニ、傍ニ物共取置タリケル、略塗籠ノ戸ヲ少シ引開タリケルヨリ、動出ル者有ルヲ見レバ、長二尺許リ有ル者ノ、身ハ白クテ、頬ハ黒シ、角ノ一ツ生テ黒シ、足四ツ有テ白シ、此レヲ見テ皆人恐迷フ事无限シ、而ルニ其ノ中ニ一人ノ人思量有リ心強カリケル者ニテ、立走ルマ、ニ、此ノ鬼ノ頭ノ方ヲハタト蹴タリケレバ、頭ノ方ノ黒キ物ヲ蹴抜キツ、其ノ時ニ見レバ、白キ狗ノ行ト哭テ立テリ、早ウ狗ノ椽ヲ頭ニ指入タリケルヲ、椽ヲ蹴抜タルマ、ニ見レバ、狗ノ夜ル塗籠ニ入ニケルガ、椽ニ頭ヲ指入テケルヲ否不引出テ鳴ク音ノ怪シキ也ケリ、其レガ走り出タルヲ、物恐ヲ不爲ズ量リ有ケル者ノ、狗ノ然カ有ケル也ケリト見テ、蹴顯シタル也ケリ、

多志良加
蝦蟇槽

〔書言字考節用集七器財〕多之良加納水之器

〔倭訓栞多編十三〕たしらか、延喜式に、多志良加一口と見えたり、尼瓶に似たりといへり、水を入

る器なり、江次第に見ゆ、日本紀に、手白香皇女ましませり、

〔古事記傳四十三〕手白髮郎女白髮は借字なり、御名瓦器の名なり、貞觀儀式會儀大嘗に水部一人執多志良

加略、中主計式に、多志羅加二口受、また手白髮カベ、四口などある是なり、水部執とあるを思へ